

常磐会報



Vol.56
December
2025



母校は令和8年度(2026年度)に
創立110周年を迎えます

目 次

常磐会会长・校長・実行委員長あいさつ	2~3
卒業生からのおたより	3~4
恩師からのおたより	4~6
京都高校の近況報告	7
コラム「校史を読む 三」	8
創立110周年記念事業について	8



令和7年12月10日発行

常磐会



ごあいさつ

常磐会会長 和田雄二
(高校31回生)

常磐会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

まず初めに、この1年間を大過なく務めることが出来ましたのも会員の皆様方のご協力の賜物と、心よりお礼申し上げます。

さて、母校京都高校は、来年度に創立110周年を迎えます。母校創立とほぼ同時に発足した同窓会常磐会も来年度

110周年を迎えます。本会会則の第2条に「本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上発展を図り、母校の名譽の發揚に寄与することを目的とする」とあります。が、総会は100年を超える長きに亘り引き継がれてきた、一年に一度、同窓の皆で集い、旧交を温め、親睦を深める大変有意義な機会です。是非多くの会員の皆様に総会事業へご出席いただきますよう願っています。

本年度の総会実行委員会は、平成5年卒業の高校45回生・定時32回生、平成18年卒業の高校58回生、平成30年卒業の高校70回生の皆様です。45回生炭本有恒実行委員長、中村公一事務局長を中心によろしく準備を進めていただきました。コロナ禍が過ぎたとはいえ、コロナ禍で一度途切れた流れはまだまだ回復途上であり、昨年度同様、かなりのご苦労があつたものと思います。実行委員の皆様の尽力に敬意を表し、心より感謝申し上げ

ます。

また、本年度総会事業の開催にあたり、コロナ禍後の円安、物価高騰などの不安定な経済状況がまだまだ続く中にもかかわらず、快くご協賛いただきました皆様に対しまして、心よりお礼申し上げます。皆様のご厚意は、総会事業の運営、現役京都高校生への援助に、大切に使わせていただきます。誠にありがとうございます。

そして会員の皆様のご協力により、昨年12月に「令和6年版常磐会会員名簿」を発刊することができました。心よりお礼申し上げます。5年に一度の発刊となりますが、が、同窓会活動に有意義にご利用いただきますよう願っています。また、2022年度より常磐会公式ホームページを立ち上げていますので、会員の皆様の情報収集、情報発信にご利用いただければと思います。

最後になりますが、母

校京都高校のさらなる躍進と、同窓会常磐会のますますの発展、あわせて本年度常磐会総会の盛会を祈念し、「ごあいさつ」とさせていただきます。

○常磐会公式ホームページURL
<https://dousoukai.site/miyako-tokiwakai/>



ごあいさつ

校長 合 満 聰



常磐会の皆様にはますます御健勝のことと拝察いたします。日頃から母校に対し、多大な御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、総会が盛大に開催されますことに、衷心より御慶び申し上げます。あわせまして、会長の和田雄二様、役員の皆様、実行委員長の炭本有恒様をはじめ京都高校45回生の皆様の御労苦に対しまして深甚なる敬意を表します。

私は今年度、京都高校の校長に着任いたしました。有為な人材を3万人以上輩出し、地域を代表する名門校として歩んできた本校の充実発展に努め、全職員の力を結集し、揺るぎない京都ブランドを不動のものといたします。

昨年度も生徒たちは本校に学ぶ誇りを胸に心身を鍛え、多くの部活動がめざましい活躍を見せ、県大会や九州大会に出場を果たし、勉学との両立を果たす学校として際立つ存在感を示しています。また全日制、定時制から、将来の夢の実現のためそれぞれの進路に向け、本校で培った大きな翼で飛び立ちました。なお、部活動や進路状況の詳細な状況につきましては、他の紙面を御覧いただきたく存じます。

今年度は、入試改革、中高連携、高大連携を念頭に、教育活動の活性化をさらに推進し、生徒の主体性を育む活気ある学校づくりを推進します。また今年度、文部科学省からDXハイスクールの指定を受け、AI技術の発展により激変が予想される未来社会の作り手となり、多様な人々と協働で

きる素養を磨きます。激変する社会で、本校が目指すもの、守るもの、変わるものを見極め、スクールミッションを達成する中で、地域からの信頼をより一層高めます。

そのため昨年に続き、「教師力」「連携力」「学校力」の向上に努めるとともに、「地域のみならず世界を舞台に活躍する人材を育成する」学校として、国際化に対応できる教育を行ってまいります。日々の教育活動の中で生徒は、探求心やチャレンジ精神を育む「グローバルOneプロジェクト」を指針とし、生き方を探り、なりたい自分を思い描き、プラスOneを積み重ねています。これからも、人生100年時代を力強く生き抜き、新しい価値を創造し、自己の可能性を高める生徒と高い教育力をを持つ教職員が一体となり、可能性や夢、大きな未来を自由に描く学校であり続けます。

また来年度は、「翼を広げ、世界にはばけ！」をスローガンに創立110周年を迎えます。現在、和田会長に実行委員長をお勤めいただき、記念行事、記念誌編纂等を順調に進めています。すでにグランドの黒土や、看板の設置を先行実施していただき、機運も高まりつつあります。本校は新たな歴史を刻みます。

結びに、今後とも本校並びに後輩生徒たちに温かい御支援を賜りますとともに、常磐会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

二〇二五年度常磐会総会開催にあたり、当番回生を代表してご挨拶申し上げます。本年も常磐会に多大なるご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

私は現在、母校京都高校に勤務いたしております。学校においては、後輩たちが夢を叶えるべく奮闘する姿を日々目にしており、その支援のために力を尽くしています。また、常磐会および京都奨学会よりご支援をいただきて様々な取り組みをすることで、生徒は自分の進路実現に向けて成長をしています。

変化の激しい社会状況の中ですが、夢を持ち、その実現に向けて純粋に努力をする生徒の姿は、今も昔も変わりはないと思います。生徒を取り巻く状況は、多くの同窓生の皆様が高校時代を過ごした頃とは大きく変わっています。教育を取り巻く環境や、生徒の生活の中に情報機器が多く取り入れられるようになつたことも、目に見えてわかる変化の一つだと思います。学習内容や目標なども、社会の状況に合わせて改められていく部分もあります。しかし、学び、成長する上で大切なこと、生徒が抱く思いや悩み、未来を切り拓く意志を強くすることの根本にあることはいつの時代も変わらないのではないかということを感じます。

それは、未知を既知にしようとする好奇心や学ぶ意欲、自分の学び得たことを誰

ではないかということを強く感じます。

京都高校を卒業し32年も経つていることになり、高校時代から現在までを振り返つて思います。その広がりや深まりが、在

かの役に立てたいという気持ち、幸せな生活を送りたいという思い、自分の幸せを実現するためには、周囲も幸せであつた方がよいという気づき、というものではないかと考えています。

常磐会とは、そうした思いをもつて京都高校での三年間を過ごし、卒業していく人々の集まりではないでしょうか。人それぞれに、うまくいった経験も思い通りにならなかつた経験もあると思います。また、高校時代だけを考えても、よい思い出としてよみがえる人も、二度と思い出したことないという人もいることだと思います。しかし、人生は高校時代で終わるではありません。その後の人生において、よりよい生き方をそれぞれに模索します。今の状況を創り出してきたのではないでしょうか。その経験を、人生の後輩に伝えたりしてきたのではないでしょうか。

そうした考え方や生き方の一部分に高校時代はあつたのだと思います。

私たち当番回生も、様々な思いをもつて今回の総会に臨みました。自ら手を上げて、実行委員会に参加して、準備に奔走してくれた方々に、この場を借りてお詫び申し上げます。実行委員会の思いが、常磐会総会に参加していただける人々には伝わっていくのだと確信しています。



ごあいさつ

実行委員長 炭本有恒

(高校45回生)

校生へとつながつて彼らのよりよき成長へと結びついていきます。彼らの成長は、よりよい未来へつながり、京都高校の発展といわれる結果として残つてきました。これからも積み上げしていくのだと思います。

総会開催にあたり、中心となつて活動してくれた当番回生の皆様、力強く支えてくださった先輩や後輩の皆様、ご協賛・ご協力いただいたすべての人々に、もう一度心より厚く御礼申し上げます。

私たちも改めて、人とのつながりを実感し、思いをつなげていく活動ができるました。この活動が末永い皆様のお幸せに役立つことになれば、幸いです。今後とも常磐会および京都高校へのあたかいご支援をいただきますようお願いをして、ご挨拶とさせていただきます。

今後とも常磐会および京都高校へのあたかいご支援をいただきますようお願いをして、ご挨拶とさせていただきます。

卒業生からの
おたより1

高校45回生 角谷玲雄

卒後32年経つて

Message from
Alumni



卒業生からの
おたより1

高校45回生 角谷玲雄

卒後32年経つて



この度は2025年度常磐会総会の開催、誠におめでとうございます。開催を迎えたのは45回生を中心とした実行委員会の皆様のおかげであり、大変ご多忙の中ご尽力いただき誠にありがとうございます。

今回、このような執筆の機会をいただき大変光栄に存じます。

京都高校を卒業し32年も経つていることに驚き、高校時代から現在までを振り返つてみたいと思います。

京都高校を卒業し32年も経つていることには伝わっていくのだと確信しています。

そして、其の思いは、また、そこから関わりのある人々につながつていくものだと思います。その広がりや深まりが、在

常磐会

令和7年12月10日発行

高校時代の思い出は、勉強は課外や日々の課題など大変だったな、部活は軟式テニス部で、先輩たちの最後の大会で自分が負けてしまい県大会に進めず申し訳なくて泣いたな、修学旅行はなぜか冬の沖縄、スキーや東京旅行ができなかつたと当時は残念だつたが時間が過ぎてみるとあれはあれで良かったな、などなど。

そして、高校時代にはたくさんのお世話になりました。中でも2、3年生時の担任であつた實崎先生には大変お世話になりました。優しさの中にしつかり厳しさもあり、そして何と言つても、お美しい先生でした。高校時代に友人と「クラスで一番の美人は實崎先生やね」と話していたことを覚えています。

實崎先生には卒業して数年後にもいろいろとお世話になつてしましました。私は、諸事情により現役合格した大学を中途退し、小さい頃からの夢であつた獣医師になるために再度受験をしました。受験時に必要な卒業証明書をまだ京都にいらつしやつた實崎先生に発行をお願いしました。結局3回もお願いに行くことになつたのですが、そのときにかけられた次の言葉は今も心に残っています。

「同級生はもう社会人になつてる人もいるんだから、あなたもしつかり頑張つて早く一人前にならないと!」

大変愛情に満ちた叱咤激励を頂きました。そのおかげか、無事に志望大学に合格し獣医師になることができました。

あのときの先生の「愛情溢れる喝」がなければおそらく合格できなかつたと思います。あらためて、實崎先生ありがとうございました。

私はその後、獣医師として兵庫県の動物病院で約8年間勤務し、その後、妻の実家のある大分県で獣医師職の県職員として勤務しました。

一年間の浪人生生活を送った河合塾北九州校で出会った現代文の茅島洋一先生(故人)には、大学受験という枠を超えて公私ともにお世話になつてきました。茅島先生は有名な伝

ています。現在の業務は、食肉衛生検査所での検査業務で、食肉衛生・施設の衛生管理など食の安全・安心に携わる仕事をしています。

高校時代には想像もしていなかつた業務に従事し、専門職であるので現在も日々、新たな知識の習得、技術の研鑽が求められ、大変なこともあります。そこで頑張れるのはやはり高校時代に鍛えられたおかげだと思います。

高校時代は、毎日の課題に追われ、嫌なところも多々ありました。今になつて思うと、若い時代にしつかりと鍛えて頂いたことは自分の財産になつていると感じています。今後も、自身に与えられた役割をしつかりと果たし社会へ貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、京都高校、常磐会の益々の発展を祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

卒業生からの おたより2

五十を迎える

高校45回生 爪田 一寿



本稿を草するにあ

う機会にも恵まれた。

大學院修了後、武藏野大学・大学院に専任教員のポストを得て十年間、研究だけではなく教育にも携わり、狹義の専門である仏教だけでなく、生命倫理・環境倫理・死生学・ホスピス論などの講義を担当した。その間、東京医科大学非常勤講師(宗教学・医療人間学)、関西学院大学客員研究員、西本願寺の教

育研究所を通して、茅島先生に木村敏先生や野家啓一先生を紹介して頂き、直接お話を伺う機会にも恵まれた。

大学院修了後、武藏野大学・大学院に専任教員のポストを得て十年間、研究だけではなく教育にも携わり、狹義の専門である仏教だけでなく、生命倫理・環境倫理・死生学・ホスピス論などの講義を担当した。その間、東京

習館被処分教師のお一人であり、その処分の不當性を主張して最高裁まで争われた。(今では考えられないが)教室で煙草を片手に、テキストを遠く離れて政治や経済・哲学を縦横無尽に語り続け、講義後には(これも今では考えられないが)ジャズ・バーでハイボールを飲み交わしながら実に様々な話をしています。

東京大学入学後、憧れの哲学者・廣松涉先生(その年の五月二十二日に逝去された)に面会する機会を作つて下さつたのも茅島先生だった。その後、学部から大学院博士課程に至るまで、末木文美士先生、丘山新先生をはじめとする先生方にご指導頂きながら、インド哲学・仏教学を専攻したが、その傍ら、生命倫理学の研究をするようになつた。大学院進学後、茅島先生の紹介で河合塾の現代文・小論文の講師となり、その縁で生命倫理学者の小松美彦先生の知遇を得て研究会に誘われ、そこで当代を代表する先生方と共に研究する機会に恵まれ、共著の末席に拙論を加えて頂く榮にも浴した。また、河合文化教育研究所を通して、茅島先生に木村敏先生や野家啓一先生を紹介して頂き、直接お話を伺う機会にも恵まれた。

史を担当している。また、余技として各地の高校での特別講義(国語や小論文)に出講している。

ただ五十歳を迎え、残された年月が見えるようになつてきた今、古典を原著で読み返すことなく時間を費やしたいと思うようになつてきた。学生時代、習得に苦労したサンスクリット、パーリ語、古典チベット語、古漢語、古典ギリシア語、ラテン語の文法書や辞書を片手に、老眼で霞む目で文字を追う時間が至福である。



45回生の皆さんへ

Message from Teacher

恩師からの おたより1

高校45回生 3年1組担任
香田 芳彦 先生



令和7年度常磐会総会に当番幹事として準備してこられた皆さん、お疲れさまです。
第45回生の皆さん、元気にお過ごしです

でお会いした皆さんは、生徒のときの面影を残しとても懐かしく感じました。皆それぞれ元気に活躍していることを耳にし、大変嬉しく思います。

45回生といって、真っ先に思い出すのは沖縄への修学旅行でしょうか。それまでのスキー教室とは違つて、見学主体のものに変わつたことは大きな変化であつて、その分大変な労力を要しました。当時は修学旅行の総務として担当したので、旅行会社との打ち合わせや学年の先生方との会議などを取り仕切り、とても苦労したこと覚えています。時折、45回生の方からは「僕らはスキーのできない学年ですよ」などといわれたりします（ちょっと、申し訳ない感じ…）。また、校友会誌をめくっていくと、歓迎遠足にスペースワールドに行つたことも載っていました。今や駄名以外何もなくなつてしまいましたが、懐かしいシーンを見る事ができました。そう考えると、校友会誌も昔をよみがえらせてくれる貴重な資料ですね。

A black and white portrait of a middle-aged man with glasses, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

恩師からの
おたより2

ありがとうございました
先生

スキーのできない学年ですよ」などといわれたりします（ちょっと、申し訳ない感じ…）。また、校友会誌をめくっていくと、歓迎遠足にスペースワールドに行つたことも載っていました。今や駅名以外何もなくなってしまいましたが、懐かしいシーンを見る事ができました。そう考えると、校友会誌も昔をよみがえさせてくれる貴重な資料ですね。

本校の状況や活躍を知る楽しみとなつていま
す。今後の同窓生の健闘を祈っています。

最後になりましたが45回生の皆さん、こ
れを機にクラス会や45回生の同窓会などで
つながりを続けてみてはいかがでしょう。

本校での縁（えにし）をこれからも大切に
お過ごしください。

分大変な労力を要しました。当時は修学旅行の総務として担当したので、旅行会社との打ち合わせや学年の先生方との会議などを取り仕切り、とても苦労したこと覚えています。寺町、5回生の方からは「羨(うらやま)しき」

といふたところでしようか。数学から離れたて3年半、徐々に忘れつつあるので少し思い出すくらいには勉強しようかなと考えたりもします。京都高校を離れてから24年になりますが、毎年送つてくる「音信会報」が

になつた分野が出てくれば、そこを掘り出していっては読みあさつてゐる感じかな。その他にも、パソコンで映画を見たり、ドラマやドキュメンタリーなどの動画を見たり、好きなことをやって過ごしています。時には、日帰りのバスツアーに参加したり、近くに出かけて行ったりもしてます。学校現場から離れて、少しのんびりしてます。

皆さんにとつての京都高校は、時代が変わつても永遠に母校であり続けます。同窓生として末永く京都高校と後輩を温かく見守つて、ござきっこな思います。

恩師からの
おたより3

高校45回生の皆さんへ

高校45回生 3年6組担任 本田 免郎 先生

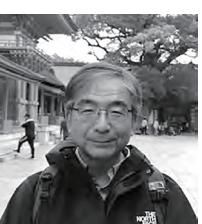
られた使命を果たすべく、積極的に活動されている皆さんは、充実した現在を生き、過去をプラスに評価し、未来に明るい展望を持てる方々といえるでしょう。みんなの力で一つのことを成し遂げることにより、さらに自信を持てるようになると思います。残念ながら今回は縁のなかつた皆さんも次

の真似事…。脳も体も衰えていく中、時々流れに身を任せ、自然のリズムに合わせながら悠々自適の生活をしていることにしがおきましよう。

結びになりましたが、皆様のご多幸とご都高校の益々のご発展をお祈り申し上げ、筆を擱きたいと思います。

クラス担任となるとは思つてもいませんでした。その後も多くの方々のお陰で今日とう日を迎えるました。今回の寄稿で若い皆さん方との関係性も薄れ、いよいよ老境に入つていくことになるのでしょうか。これまでご縁をいただいた方々に感謝しながら、残された時間をいかに心穏やかに過ごすかがこれから課題かと。

があります。ただ、あまり気づいてもららなかつた気がします。明るくまとまりのあるクラスでしたが、武末さんを病氣でなくすという悲しい出来事がありました。皆さんの持ち前の明るさで何とか乗り切ったと憶しています。



高校45回生の皆さん
おめでとうございます

高校45回生の皆さんへ

高校45回生 3年6組担任

りましたが、見習う事が多く、いろいろとアドバイスもしていただきました。私が京都を離れてから、一度もお会いできなかつたのが残念です。

話は変わりますが、大正9年といいます

から今から105年前のことです。洋画家

の田崎廣助氏は、当時新設校の京都高校（当

時は京都高等女学校）の初代美術教師となる予定だったそうです。しかし、羽犬塚の駅から列車に乗る際、行橋行きの切符を買わぬ東京行きの切符を買い、画家になるため、たいした当てもない東京に行く決意をしたそうです。当然仕事を紹介してくれた方の顔を潰すことになり、厳格なお父さんは氏を勘当したそうです。当時県立の女学校に就職するのは、かなり幸運なことで

あつたようです。この話は、田崎氏の自伝である「東洋の心」に書かれています。田崎廣助氏は、後に洋画家として大成され、文化勲章を受章されています。田崎氏が本校の教壇に立たれることはありませんでしたが、この事は、後の私たちに、自分の選んだ道を信じ、誠実に努力することの大切さを教えてくれているのではないかでしょうか。

私は、退職を機に香春町の郷土史会に所属し、郷土の歴史を勉強しています。意外にわかっていないこともあります。様々な史料から想像をめぐらすことに面白さを感じ、これからも頑張ってみようと思っています。45回生の皆さん、これからそれぞれの立場で中枢を担われて行くことと思います。公私ともに忙しい日々を送られることと推察いたします。どうか体に気を付けて頑張つてください。幸運を祈っています。

恩師からのおたより4

高校45回生 3年7組担任

實崎 智恵美 先生

懐かしい日々



四十五回生の皆さん、お元気ですか。皆さんが京都高校を卒業されてもう三十年以上上の年月が過ぎてしまったとは…。皆さんのが在学中の頃は私は三十代半ば頃。あの頃の京都生は元気で、エネルギーがあふれていた。今の皆さんもまだそうかもしれません。体験学習や九重キャンプ、沖縄への修学旅行、校内での文化祭や体育祭、どのシーンにも、長い授業であつても笑顔があふれていたように思います。

さて、私自身の近況を少し話したいと思います。私は現在六十九歳。三十八年間の教員生活の中で、三十三年間を母校でもある京都高校で勤務し、六十歳で定年退職。今は完全にフリーです。学校という世界しか知らずに過ごてきて、退職後はこれまで知らないかった世界を知りたい、してみたかったことをしてみたい、と思いました。そこでまずしたのが、旅。東京、大阪で子どもたちの手伝いをしながら生活し、行橋とは全く異なる都会の生活をしながら、美術館めぐりをしたり、大学時代の友人に会つたり、孫たちの保育園や学校を見学したりと、さまざまな経験をしました。また奈良を歩き、京都の神社仏閣を訪ね、高野山、伊勢神宮にも参詣。古典が好きな私は京都には年に二、三回はテーマを決めて旅行しています。たとえば、「建礼門院徳子の出家と晩年」、「京都の紅葉名所で観光客が少ない場所」など。退職後に京都検定も受け、現在は二級。学ぶことは年を重ねても楽しいものです。さらに、我が家の中庭に古典に登場する植物を植えて育てる日々も癒やしになっています。梅、馬酔木、山吹、芍薬、桔梗、萩、女郎花、藤袴など。昨秋は満開の藤袴にアサギマダラがふらりと飛んできてくれて、楽しませてもらいました。行橋でも田舎の方に住んでいるので大変なこともありますですが、今では地域の神社掃除、空き缶拾いなどのボランティア活動も楽しむ日々です。

今年一月三日の同窓会でお会いした四十五回生の皆さん、年月は随分たつていて、顔を見て話していると在学中のことが自然と思い出されるのが不思議でした。

それぞれに社会のさまざまな分野で活躍されている様子もうかがえて頗もしくなっています。私は卒業時三年七組の担任でしたが、あの頃のメンバーが会の司会をしたり、お世話をしたりしている様子に、みんな五十歳なのだなあとしみじみ思つていました。

さて、私自身の近況を少し話したいと思います。私は現在六十九歳。三十八年間の教員生活の中で、三十三年間を母校でもある京都高校で勤務し、六十歳で定年退職。

今は完全にフリーです。学校という世界しか知らずに過ごてきて、退職後はこれまで知らないかった世界を知りたい、してみたかったことをしてみたい、と思いました。そこでまずしたのが、旅。東京、大阪で子どもたちの手伝いをしながら生活し、行橋とは全く異なる都会の生活をしながら、美術館めぐりをしたり、大学時代の友人に会つたり、孫たちの保育園や学校を見学したりと、さまざまな経験をしました。また奈良を歩き、京都の神社仏閣を訪ね、高野山、伊勢神宮にも参詣。古典が好きな私は京都には年に二、三回はテーマを決めて旅行しています。たとえば、「建礼門院徳子の出家と晩年」、「京都の紅葉名所で観光客が少ない場所」など。退職後に京都検定も受け、現在は二級。学ぶことは年を重ねても楽しいものです。さらに、我が家の中庭に古典に登場する植物を植えて育てる日々も癒やしになっています。梅、馬酔木、山吹、芍薬、桔梗、萩、女郎花、藤袴など。昨秋は満開の藤袴にアサギマダラがふらりと飛んできてくれて、楽しませてもらいました。行橋でも田舎の方に住んでいるので大変なこ

ることになったわけですが、この年になつて今さらながらこれからどう生きていくべきか、とまだまだ考えている自分がいます。「あなたの身体はあなたが食べたものによつてできている」などと言われますが、最近考へているのは「人生は選択でできている」ということ。これまで振り返つてみても、その時々の選択、決断によつて自分の人生は成立してきたのだなと思ひます。そしてそれはずっと続くものです。これはみなさんは同じはずです。よりよい人生などといふものがわかるのかはわかりません。さまざまなものを選択しながら、失敗したときにはまた別の選択をして生きていく、それしかないのではないか。現代はたくさんの中肢があるいい時代です。真剣に考へていけば、自分の前に開ける世界が見えてくる気がします。

みなさんの今後の人生が今よりさらによいものとなることを願つています。



校史を読む

「わが校の六十年」アルバム

山内 公一（高校11回生）

本校は大正六年（一九一七）の開校で、令和八年（二〇二六）は開校一二〇年の記念すべき年となる。今回の「校史を読む」は、昭和五一年（一九七六）に発行された「わが校の六十年」アルバムを紹介したい。

B5判ヨコ型、一四七ページの上製本で、「女学校編」、「高等学校編」、「六十年譜」という構成で、大正時代四二枚、昭和初期の女学校時代二六六枚、昭和戦後の大正時代三四七枚の合計六五五枚の写真と学校内配置図などが掲載されている。

文章を読むのではなく、写真を眺めるだけなので気軽にページが進む。

大正時代の写真を見ると、男性教師は洋服だが、女教師と生徒はみな羽織、袴。制服、体操服、作業服の変遷も紹介されている。セーラー服に移行したのは昭和二年（一九二七）入学の女学校三回生からだった。

「太平洋戦争前後」のコーナーでは、戦勝祈願や防火演習、救助訓練、女子挺身隊の結成や勤労奉仕など苦難の様子が伝わる写真が並んでいる。

「新制高校への新しい出発」のページは、昭和二三年（一九四八）四月の記念すべき男女共学第一回入学式の写真を、「学園生活」のコーナーでは、運動会や文化祭、クラブ活動のにぎやかな様子を見るのは楽しい。

学校施設の建設、整備の経緯を見ると、女学校校舎の完成（大正二年）、戦後の校舎増築（昭和二七年）、運動場拡張（昭和三年）、講堂兼体育館の完成（昭和三年）、本館と図書館の完成（昭和三九年）、プール、食堂の完成（昭和四一年）、校舎の増改築の完成（昭和五一年）などを見る事ができる。その時々の校舎の空写真を見ると、学校周辺のまち並みも大きく変わったことがわかる。

学校と常磐会に提案だが、今後の周年記念事業など、機会があれば記念写真帳の刊行をしていただきたいとお願い申し上げたい。

創立110周年記念事業について

1917年（大正6年）、前身である福岡県京都郡立京都高等女学校として開校して以来、母校は令和8年度（2026年度）に創立110周年を迎えることになりました。

この記念すべき年を迎えるのは、ひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。
つきましては、下記に記念事業の予定スケジュールをご案内いたします。

創立110周年記念事業（令和8年度予定）

令和8年5月16日	創立110周年記念招待試合 京都高校内 野球：京都一育徳館 その他調整中（サッカー・バスケットボール）
5月下旬	創立110周年記念体育大会
7月2日	創立110周年記念芸術鑑賞 北九州芸術劇場 ミュージカル「真昼の星めぐり」
9月上旬	創立110周年記念文化祭
10月31日	創立110周年記念式典 創立110周年記念講演会 講師 清永聰氏（高校40回生 S63卒）

訂正・調査専用ページを開設しました。

- 同封の振込用紙のQRコードからご自身のページをご覧いただく事ができます。
- ご自身の住所等の訂正の他、同級生等の住所不明者をご確認いただけます。
- 住所不明者の新住所は必ずご本人様にご確認のうえ、常磐会事務局へお寄せください。

【コンビニからの振込】【スマートフォンでの決済】に対応しております。

【コンビニ決済】

同封の振込用紙にて、全国のコンビニエンスストアでお支払いが可能です。

【スマートフォン決済】

決済アプリ（PayPay、au PAY、Pay B）から請求書払いを選択いただき、同封の振込用紙に印字されたバーコード（ご依頼人・通信欄）を読み込んでください。払込金額2,000円を確認して支払い手続きをお願いいたします。

※注意事項：決済画面にて「サラト」と表示（右写真参照）されますが、システム代行会社の名称です。
「常磐会」の会費納入で間違いございません。

